

あなたと三井生命を結ぶ
ベクトルライフ



ベクトル

Life

11月号
2015年
Vol.183

◆ 目利きの学校
家庭用手袋の選び方

Master



◆ 本道佳子の
五感が喜ぶクッキング
きのこのトマトの
ノンオイルリゾット

Cooking



◆ クローズアップ

今日からできる
国際交流

◆ この人に聞く
People

俳優 高橋克実



Close
UP



自宅で旅先で テーブルを囲んで国際交流

友人や親せきを家に招き食卓を囲むと、外で会食するよりもリラックスし、会話がはずむ。この効果を外国人との交流に応用したのが「ホームビジット」。海外からの旅行者をゲストとして自宅に招くプログラムだ。ホストは、ふだんの家庭料理を用意して、ごはんを食べながら楽しい時間を過ごす。宿泊を伴うホームステイよりも気軽な国際交流として注目されている。

ホストを募集をしているのは、自治体、大学や財団法人など。そのひとつで、1000組以上のゲストを受け入れているNPO法人NAGOMI VISITのプログラムでは、登録したホストにゲストのプロフィールが紹介され、日時などの希望が合えばホームビジットが決まる仕組みだ。「英語を話す機会が欲しい」「子どもに異文化を経験させたい」「料理が趣味だから」などの理由でホストに登録する人が多いという。日本の家庭の暮らしぶりが見られるとあって、外国人のゲストにも好評だ。

また、旅先で食事をもとにして交流する方法もある。旅先といっても国内だ。外国人旅行者の多い観光地の「ゲストハウス」を利用する方法だ。ゲストハウスとは、キッチンやリビングなどを共同で使用する安価な宿泊施設。ファミリーで利用できることや、相部屋があるところも多く、さまざまな国の人との交流が楽しみのひとつだ。文字通り“同じ釜の飯を食う”国際交流を、試してみたいだろうか。



↑ 観光庁の「訪日外国人消費動向調査」(平成27年4～6月)によると、「今回したことの満足度」でいちばん高かったのが、「日本の日常生活体験」だった
(画像：特定非営利活動法人 NAGOMI VISIT)



国と国との友好関係は、政治の問題で自分には関係ないと考えがちだが、お互いの国の好感度は、個人的な交流やその国の文化などを知ることと変化する。好きな俳優の出身国に興味を覚えたり、映画や文学作品に感動して、その国を好きになることもある。

海外旅行へ行った際、差別的な扱いを受ければ、その国の印象は悪くなるし、親切に接してもらえば、そ

の国が好きになるものだ。そして個人的に外国人と知り合いになり、友好関係ができると、その国の好感度はさらに高まる。

国際交流は国内で

個人の国際交流で日本の好感度アップに貢献したい。そんなことができるのだろうか。

あなたが海外に行く予定がなくても、日本には多くの外国人が訪

れている。日本に住む外国人は約212万人(2014年末調べ)。そして昨年日本を訪れた外国人は約1341万人だ。1964年に開催された東京オリンピックの年の訪日外国人は35万人だったというから、50年間で数十倍の増加となった。

近年は円安効果もあるが、観光ビザの免除や緩和により、おもにアジアからの観光客が激増している。また、イスラム教徒の旅行者が戒律や教義を守るような受け入れ態勢を整える宿泊設備なども増えてきており、さまざまな国の人々がやってきている。今年は1～6月までの半年ですすでに約914万人で、年間2000万人に達するのも時間の問題だ。考えてみると、2000万人とい





(画像：特定非営利活動法人 NAGOMI VISIT)

うのはすごい数だ。5年間なら1億人となる。その人たちが日本を満喫し好印象をもって帰国したなら、国と国の良好な国際関係にも役立つに違いない。

国際交流というと、おおげさな感じがするが、困っている人を見たら助けるだけでも交流だ。駅の階段で大きな荷物を運ぼうとしている人を見たら、手伝うとかエレベーターの場所を教えてあげるのもいいだろう。アジア人だと、外国人か日本人かわからない場合もあるが、まずは日本語で話しかけ、言葉が通じないようなら、身振りで示せばいい。日本人でも外国人でも不慣れた場所であっているようなら、ちょっと声をかけてみる。少しの勇気がその場をなごませるに違いない。

草の根の交流でお互いを知る

世界の人々と仲良くしたい、縁があれば助けたいとも思う。そう思っている、きっかけがない人も多いだろう。

もう少し深く交流したいと思えば、住んでいる地域に目を向けてみるのもいい。多くの自治体では、さまざま



(画像：特定非営利活動法人 NAGOMI VISIT)

まな国の自治体と姉妹都市の提携を
して、地域で交流活動をしている
ことも多い。たとえば大分県日田市
中津江村地区(旧日田郡中津江村)
のカメルーンとの交流は全国的にも
有名だ。2002年のサッカーワー
ルドカップのキャンプ地となったこと
が縁だが、現在も交流が続いている。
また、多文化共生を図る目的で設
立された「国際交流協会」などもあ
る。個人ではきっかけがつかめなく
も、会や団体のプログラムがあると交
流しやすい。地域密着の草の根の交
流は、お互いの理解を深めるだろう。